第39期　園芸学科通信　平成28年11月25日（金曜日）

園芸学科通信

第２号

■第３９期・園芸学科入学生の歓迎会が開催される■

～第３８期・園芸学科親睦委員が主催～

滋賀県レイカディア大学米原校の第３９期生として入学して１か月が経ったこの時期、園芸学科２回生である第３８期生親睦委員主催の歓迎会が開催されました。

平成二十八年十一月十七日（木）十六時、彦根市のある「マリアージュ彦根」の宴会場は、初対面の人が多いと思われるのに、第３８期の２回生と第３９期の新入生との壁がまるでないのではないかと思われるほど和気あいあいで、大いに盛り上げっていました。

例年、２回生が新入生を歓迎する意味で親睦委員が計画し実行しています。

歓迎会の案内文には「第３９期園芸学科の皆様には、ご入学おめでとうございます。これからの２年間は、今までの人生で得ることが出来なかった、幅広い必須講座と少し踏み込んだ選択講座の学習で楽しいシニアの時間を過ごしていただきたい。また、この機会に新しい仲間をたくさん作ってください。レイカディア大学とはそのようなことが出来るところです。おおいに頑張ってください。（一部引用）」と記入されています。

この日は、午前中に必須講座「古民家を活用したまちづくり」と題して、滋賀県立大学教授・濱崎一志氏の講義があり、午後はクラス活動を学科長の進行で進めました。送迎バスの来る頃には、こころはすでに歓迎会に。講義を終えた一同は２台のバスに分かれて車中の人となりました。

第39期・園芸学科入学生の歓迎会

歓迎式の会場となったマリアージュ彦根での歓迎会は、十六時に司会である第３８期親睦委員の開会の辞で始まりました。第３８期北村学科長の挨拶があり、藤原副学科長の乾杯の挨拶で親睦会はスタートしました。

参加者全員わきあいあいのなか、２回生による余興が始まりました。「手品」や「何が出るか?」また、「替え歌」など宴会は大いに盛り上がりました。

終盤には校歌「レイカディア賛歌」を全員で合唱し、第３９期生代表し、水原学科長の挨拶で閉会しました。

◆選択講座を受講する◆

・樹木の名前を覚えよう
・樹木の観察（ウオッチイング）

講師　樹木医　田上　知　氏

今月最初の選択講座を、十一月八日に米原公民館、２階２ＡＢ研修室で受講しました。

この日の講座は、講師に樹木医である田上　知氏を迎え「樹木の名前を覚えよう、樹木の観察（ウオッチング）」をテーマに受講しました。今回の講義内容の特筆ということは、午後から現地に行って実際の樹木を見て樹木の名前を覚えることでした。そのために、午前中の講義は、「樹木の名前を覚えよう」という内容でした。

あらかじめ講義の場に樹木の葉や実を用意しておき、木やの葉の特徴を見たり確認し、樹木図鑑と見比べて「樹木の名前を覚える」という内容でした。この時に樹木の名前を覚えるといっても、多種多様な品種があり、覚えるには難しいことですが、スウェーデンの植物学者、生物学者の「カール・フォン・リンネ」が樹木の分類方法を確立し、「分類学の父」と呼ばれていることを受講しました。

さまざまな樹木を分類するには、ほとんどが葉を中心に分類されているとのこと。例えば、アオイ科、カエデ科、ブナ科、ツツジ科、クスノキ科、マツ科など。

葉の形を図鑑で見ると、分類として、広葉樹と針葉樹、単葉と複葉、互生と対生などに分けられ、花の分類としては、両性花、単性花、雌雄異株、雌雄同株などの花の付き方によっても分けられることを受講しました。その後、椿の種を使ったクラフト作りを体験。椿の種は９月ごろに実がはじけるので、その種を使ったテントウムシ作りを行いました。

選択講座・「樹木の名前を覚えよう」講義を受ける

この日は、田上　知講師による「樹木の名前を覚えよう、樹木の観察（ウオッチング）」をテーマに受講しました。

午前中は樹木の名前を覚えるという樹木の基礎を学びましたが、午後からは課外学習として、現地見学を行いました。

校外学習を予定されていたのは。米原市夫馬の「県立きゃんせの森」。米原市西山の「ケヤキと八幡神社の杉並木」、米原市醒ケ井の「了徳寺の御葉附銀杏」を訪ねました。

最初の研修地は、米原市夫馬の「滋賀県立きゃんせの森」です。ここは、コナラ・クヌギ・ケヤキなどの落葉広葉樹やスギ・ヒノキの針葉樹があり、樹木観察に最適な場所とのことで多種多様の樹木の中を散策しながら学びました。

米原市夫馬・きゃんせの森

次に訪ねた場所は、巨大なケヤキと杉並木がある米原市西山。新幹線のガード下に車を置き、道なりに歩きながら街角の民家の軒先に吊るされている花を見ていると巨大なケヤキに遭遇した。

米原市西山集落の大ケヤキ

この場所から歩いてすぐ、八幡神社の鳥居の前へ、ここから見上がると神社へと続く石段の両側に、見事な杉の大木が林立している。案内板には「豊臣秀吉が長浜城主であった時から、この神社を崇敬、大阪に城を構えてから安産の祈願を行ったところ、願いが叶って秀頼が生まれた。そのお礼として薩摩国よりスギの苗木を取り寄せて植えたのが、この杉並木であると伝えられている」と掲示されています。

西山・八幡神社の杉並木

最後に訪れた場所が、中山道の醒ケ井宿のお寺・了徳寺。境内には、ひときわ高くそびえるオハツキイチョウがあります。オハツキイチョウは、他のイチョウに比べて葉柄がやや細長く、葉の縁に種子を付けるのが特徴で、花が枝や葉の一部だという言われています。ここのオハツキイチョウは、通常の銀杏には見られない珍しいもので、昭和４年に国の天然記念物になっています。

了徳寺：オハツキイチョウ

◆選択講座を受講する◆

果樹栽培の適地と種類と年間管理

講師　松原　治夫　氏

十一月二十二日、選択講座「果樹栽培の適地と種類と年間管理」の受講を文化産業交流会館、第２会議室で受講しました。今回は、松原治夫氏の講義で、果樹栽培による基本を学んだ。

人の食生活に楽しみや潤いを与える食物に果物が果たす役割。果実の利用方法と果樹栽培について、その起源や果実の種類と特徴、栽培するにはどんな土地が適しているのか、また果実が持っているビタミン、ミネラル、炭水化物、脂質、タンパク質の五大栄養素をはじめ豊富な食品成分が含まれて人との関わりの重要性を学んだ。

果樹栽培の適地については、気温・降水量など気象に関するもの。果実は長期間に同一場所で生育するため、根が深く入り樹体をしっかりと支えるため保水と排水が良好な土質と傾斜地でなく平坦な土地の地形条件が望ましいこと。りんごやカキなど多くの果実は、昆虫や人工による受粉が必要であるとともに病虫害の温床にもなっていること。

このことから「びわ・イチジク・サクランボ」など、一般的な果実を例に、栽培に適した土地を耕すデ深さや、そこに入れる肥料や牛ふん、鶏ふん、腐葉土など有機質を利用した土つくり等、果実ごとに行う作業の重要性を認識しました。

最後に果樹栽培に関して必要な用語について、用語集をもとに説明を受けました。剪定の意味の時には、イチジクなど果樹のイラストを描きながらの説明に、実際に行っている場面をシュミレーションすることが出き、剪定の理解を早めることが出きました。

「果実が人との生活に関わった歴史、果実が成長するための条件、果実と野菜の違い、良い土とは、肥料の役割」など、また、果実が成長するにあたり弊害となる病害虫や無茶な剪定により樹勢が衰えたり、枝枯れや木材腐朽（くされ）の原因となることなど。これから果実栽培をするうえでの年間管理の基本を受講しました。

編集後記

平成２８年１１月２５日発行「第３９期・園芸学科通信第２号」をお届けします。

創刊号の編集後記で記載した通り、今月号も選択講座を中心に掲載しました。園芸学科のメイン講座である米原市。果樹の基本を机上勉強ではなく北近江にある実際の巨木の場所に行って目にすることで樹勢を見ることで、長年同一場所で生育するための条件とは何か、土壌、肥料、整枝、剪定はどうなっているのかを見てきました。

樹木や果樹の実物を直接見たことで、今後の園芸学科はより深い知識や実技に役立ったと思います。「園芸学科通信」をより充実した内容の誌面にするために投稿をよろしくお願いします。（佳）

滋賀県レイカディア大学・米原校
園芸学科情報委員会　発行